

旧吉野川流域下水道事業 事後評価結果

担当課 : 水・環境課

担当課長名 : 三好 一生

事業の概要

事業名	旧吉野川流域下水道建設事業	事業区分	旧吉野川流域下水道建設事業
事業箇所	徳島県	箇所名	鳴門市 他 1市4町

事業概要

終末処理場 1/8系列(嫌気無酸素好気法)、幹線管渠延長 L=24.7km

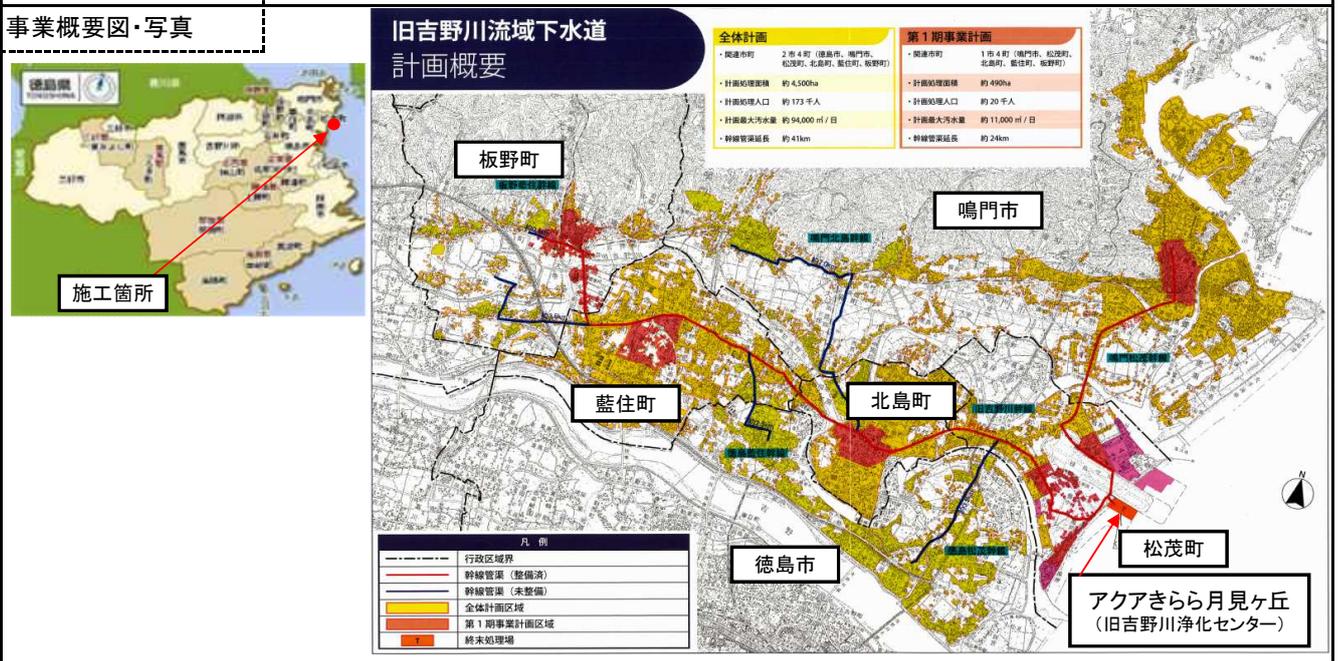
事業の目的・必要性

平成29年度末現在、本県の汚水処理人口普及率は60.4%と全国平均90.9%を大きく下回っており厳しい状況となっている。このため、旧吉野川・今切川流域の周辺2市4町における生活環境の改善、公共用水域の水質保全を目的に、県と関連する2市4町が下水道事業を実施している(県は終末処理場と幹線管渠を整備)

総事業費

33,700百万円

事業概要図・写真



事業評価結果

評価項目	評価内容
①費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	計画工期H12~H29→実施工期H12~H29 着手時B/C=1.62→完成時B/C=1.56
②事業の効果の発現状況	各市町と連携を強化し、汚水処理人口普及率の向上により生活環境の改善を図った高度処理方式導入により窒素やリンの除去を行うことで、公共用水域の水質を保全した
③事業実施による環境の変化	閉鎖性水域である瀬戸内海の総量規制に対応するため、窒素リンの除去を目的とした高度処理方式を浄化センターで採用し、水質基準を満足している
④社会経済情勢の変化	関連市町の下水道の整備の拡大と接続の進捗に比例し流入する下水量は今後も年々増加することから、事業の必要性は確保されている
⑤課題と今後の事業への反映	水量の増加状況を見ながら、段階的に処理場内の各種施設の増設する施設整備計画の見直しを行い、計画内容の検証とコスト縮減を図りながら事業を進めていく

費用対便益	区分	基準年	B/C	総費用(百万円)		総便益(百万円)	
	着手時	平成12年	1.62	140,907	建設工事費、用地費、維持管理費	228,962	周辺環境、居住環境の改善
	完成時	平成29年	1.56	233,698	建設工事費、用地費、維持管理費	365,040	周辺環境、居住環境の改善

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※保全対象については、着手時は概略調査、完成時は詳細調査結果に基づいているため、現地状況により数値が異なる場合がある。